

被害女性、難病の苦悩投稿か 逮捕の医師は安楽死肯定？

会員記事

2020年7月23日 21時19分

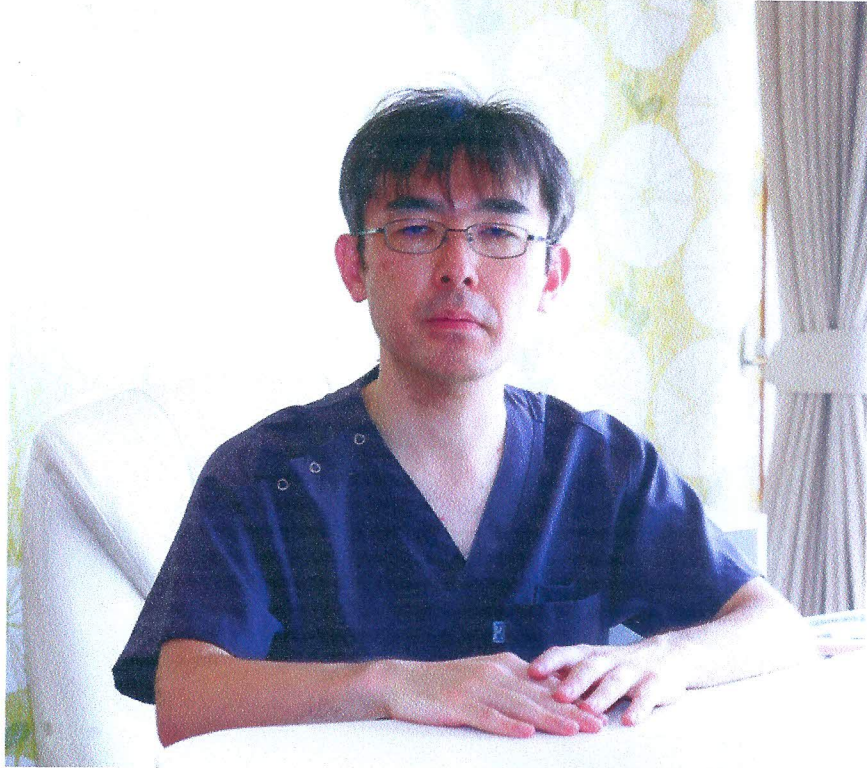


被害者の女性が住んでいたマンション。事件現場となった=2020年7月23日午後6時38分、京都市中京区鍛冶町、古田寛也撮影

被害者のものとみられるブログには「惨めだ」「生きたくない」と書かれていた。難病の女性に頼まれ、薬物を使って殺害した疑いで医師2人が京都府警に逮捕された事件。医師の1人はホスピスを手がけ、「苦痛なく死なせてやることはできる」などと匿名でツイートしていたとされる。女性と医師2人はSNSで知り合ったという。

元衆院議員の妻「私に隠れて行っていた」

大久保愉一（よしかず）容疑者（42）の妻で、元衆院議員の大久保三代氏（43）は23日午後、大久保容疑者が院長を務める宮城県名取市内のクリニック前で報道陣の取材に応じ、大久保容疑者が県外へ「アルバイト」として医療行為に行っていたことを明らかにした。



大久保倫一容疑者（ブログから）

三代氏は、大久保容疑者が短期的に患者を訪問して医療行為をすることに批判的で、たびたび口論になっていたという。「最近は私に隠れて行っていた。（夫に対して）あきれている。被害に遭われた方に、申し訳ないと思う」と話した。

夫の逮捕報道を受け、ネット上のブログにも「夫がアルバイトなどで時間の切り売りをするはずと反対で、厳しく叱って参りました」「アルバイトを繰り返し、結果このような事態になったことが、とにかく言葉が見つかりません」などと投稿した。

三代氏によると、23日朝、捜査員がクリニックを訪れ、大久保容疑者を連れて出たという。捜査員はクリニックの家宅捜索もしたという。

容疑の医師、ツイッターで安楽死に言及か

大久保容疑者のものとみられる匿名のツイッターアカウントには、被害者の女性が死亡した昨年11月末前後に、安楽死についての投稿が度々あった。

11月20日に「安楽死外来（仮）やりたいなあ」、22日に「死にたい奴に苦痛なく死なせてやることはできるのだが、後がめんどくさいからな」と投稿。28日には「死に行く人の意思が尊重されない（家族の記憶に依拠したり、口裏合わせやり放題）のに人生会議なんかやってどうすんの。リビングウィルすら法制化できないこの国で。政府ってか国会もバカだよなあ」とつぶっていた。



麗
@mhlworz

安楽死外来(仮)やりたいなあ

午後6:04 · 2019年11月20日 · Twitter Web App

1 リツイート 19 いいねの数

早く楽になりたい

2018-05-08 16:08:46

テーマ:難病

最近唾液が飲み込めず、1日中むせて咳き込んでる。
 すごく辛い。早く楽になりたい。
 なぜこんなにこんな思いをしてまで生きていないといけないのか、私
 には分からない。
 どうしても分からない。咳き込みと吸引とで1日が過ぎる。
 助からないと分かっているなら、どうすることも出来ないなら、本人の
 意識がまぎりしていて意思を明確に示せるなら、安楽死を認めるべ
 きだ。せめてこんな身体で苦勞して海外まで行く
 のだから安楽死を受けることくらい許して欲しい。付添い人が自殺幫
 助罪に当たるなんて言うな！

#自殺幫助 #安楽死 #ALS #尊厳死 #難病

被害者の女性（51）のものともみられるブログ。2018年5月から始まり、19年7月以降は更新されていない

「普通にしてるのに眉間（みけん）のしわの辛（つら）そうな顔。唾液（だえき）が垂れないようにペーパーと持続吸引のカテーテルもくわえ、操り人形のように介助者に動かされる手足」

入浴後に自力で服を着られず、介助を受けているときを振り返り、「自分では何ひとつ自分のこともできず、私はいったい何をもって自分という人間の個を守っているんだろう？」と記した日もあった。

更新が止まった19年7月28日には、「緩和ケア医の先生方がなぜ安楽死議論をがん患者に的を絞って話されるかにいつも不満を感じていた」とあった。

ブログの自己紹介文によると、1968年生まれ。2011年に発症後、仕事を辞めて東京から関西へ。一人暮らしで24時間、ヘルパーに支えられて生活し、パソコンのスクリーン上に映したキーボードを視線で追って入力する「視線入力」を使っているとして、「海外で安楽死を受けることを望んでいる」と結んでいる。

筋萎縮性側索硬化症（ALS）

筋肉を動かす神経が障害を受けることで、全身の筋肉がやせ、筋力が低下していく病気。進行の速さには個人差があるが、最終的には人工的な呼吸補助がないと生命を保つのが難しくやすい。進行を抑える薬はあるものの、根本的な治療法は確立しておらず、遺伝子治療などさまざまな研究が試みられている。現在、国内には約9千人の患者がいるとされる。

終末期医療をめぐる医師が検挙された主な事件

2008年 〈富山県〉射水市民病院

入院患者ら7人の人工呼吸器を外して死亡させたとして医師2人が殺人容疑で書類送検。09年に不起訴処分

2005年 〈北海道〉道立羽幌病院

男性患者の人工呼吸器を外して死亡させたとして女性医師が殺人容疑で書類送検。06年に不起訴処分

2003年 〈大阪府〉関西電力病院

男性患者に薬剤を投与して死亡させたとして男性医師が殺人容疑で書類送検。04年に不起訴処分

2020/7/23

被害女性、難病の苦悩投稿か 逮捕の医師は安楽死肯定？：朝日新聞デジタル

2002年〈神奈川県〉川崎協同病院

男性患者に筋弛緩（しかん）剤を投与して死亡させたとして女性医師が殺人容疑で逮捕。09年に殺人罪で有罪確定

1997年〈京都府〉国保京北病院（当時）

男性患者に筋弛緩剤を投与して死亡させたとして元院長が殺人容疑で書類送検。同年不起訴処分

1992年〈神奈川県〉東海大医学部付属病院

男性患者に塩化カリウムなどを投与して死亡させたとして男性医師が殺人容疑で書類送検。95年、殺人罪で有罪確定

朝日新聞デジタルに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.